平成２１年度　第３回企画展示

「昭和六年の天覧標本」

開催期間：平成２２ 年３月１日（月）～５月３１ 日（月）
（休館日：3/11,3/12,5/11,5/18,5/25）
開催場所：熊本大学五高記念館
（熊本市黒髪２丁目４０ 番１号）
開館時間：午前10 時～午後４時（入場は午後３時30 分まで）

昭和６年（1931）11 月の陸軍大演習・地方行幸に際して、昭和天皇に熊本の動植物などをお見せするために「聖駕奉迎博物採集動員」が実施されました。このときに作成され、昭和天皇がご覧になった標本が「天覧標本」です。このなかには、カワラサイコ、ハカマカズラ、キキョウなど、熊本県内では今や絶滅が危惧される植物が数多く含まれています。

昭和６年の博物採集動員で集められた数多くの標本から、現在とは比べものにならないくらいに自然が豊かであった時代を振り返るとともに、熊本の博物学の発展に大きな影響を与えたこの事業の意義を紹介します。

天覧標本

ミシマサイコ

松橋収蔵庫活動状況

文化企画課松橋収蔵庫では“県民参加の博物館活動”を目指して、今年度も企画展示やフィールドミュージアムなど、さまざまな活動を展開してきました。

昨年度を大きく上回る9,000 名を超える県民の皆様に参加していただき、熊本の自然や文化の魅力を再発見していただくことができたのではないでしょうか。

来年度も同様の活動を計画していますので、ご参加をお待ちしています。

《平成21 年度の主な活動実績》　※平成22 年１月現在

活動内容	参加者数（延べ）
フィールドミュージアム（自然観察会、歴史探訪会）	496
夏休みキッズミュージアム・団体利用	1,048
移動体験教室・資料貸出	3,779
企画展示・移動展示	3,423
草木染め体験講座・くまもと年中行事探求講座	164
古文書読み解き講座	207

熊本県地域振興部文化企画課
松橋収蔵庫
〒８６９－０５２４
熊本県宇城市松橋町豊福１６９５
ＴＥＬ　０９６４－３４－３３０１
ＦＡＸ　０９６４－３４－３３０２

◆定期購読できます◆

最新号をメールでお届けします。ご希望の方は、お名前をご記入のうえ、下記アドレスまでメールをお送りください。（パソコンのみ）
bunkakikaku@pref.kumamoto.lg.jp

紙へリサイクル可（大豆インキを使用しています）

「熊本の自然と文化」　～ 松橋収蔵庫だより ～　No.11

編集・発行
熊本県地域振興部文化企画課
熊本市水前寺6-18-1
TEL　096-333-2155
2010年3月1日

熊本の自然と文化

松橋収蔵庫だより

No.11
VOL. 3-4

◇松橋収蔵庫の収蔵資料の紹介やイベントのお知らせをしています。
今年度の催しもわずかとなりましたが、来年度はさらに充実した企画を予定しています。

No. 60 民俗　万石通（まんごくとおし）

万石通は、籾摺（もみす）りした後に、籾や玄米（げんまい）を網目に通して選別する道具です。傾斜した網の上を滑（すべ）り落ちるあいだに自動的にふるい分けられます。17 世紀後半に生まれた道具で、19 世紀の初めには熊本県内でも使われていました。

万石通は千石通（せんごくとおし）、千石篩（ふるい）、万石卸（おろし）などとも呼ばれます。いずれもそれまで用いられていた選別道具（通、篩、卸）より作業効率が大幅に上がることからついた呼び名です。県内ではマンゴクと呼ばれることが多いようです。

写真の万石通は、上益城郡（かみましきぐん）益城町（ましきまち）で使われていたもので、マンゴクと呼ばれていました。縦84 ㎝、横53 ㎝、高さ約１ｍ です。目の大きさの異なる網が重ねてあり、籾、玄米、砕（くだ）けた米やごみなどを一度に分けることができます。墨書（ぼくしょ）から大正７年に熊本市内で10 円50 銭で購入したことが分かります。

松橋収蔵庫に収蔵している万石通の多くは大正期から使われ始めたものです。この時期、熊本県は全国に流通させる県産米の品質向上に力を入れており、生産者は選別をより丁寧に行う必要がありました。そのため万石通のような道具が急速に普及したのではないかと考えられます。

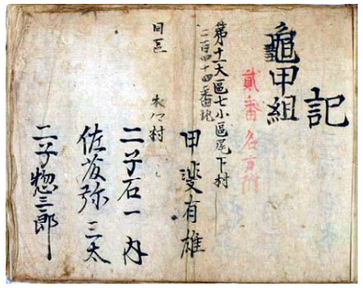
No. 61 歴史　高森町瀬井家資料「軍夫受払帳」

表　紙

この資料は明治10年（1877）の西南戦争時に作成された「軍夫受払帳」です。軍夫は戦闘には参加しないものの、戦場への補給物資の運搬などに充てられました。西南戦争では兵士たち戦闘員のほかに、村々から多くの軍夫動員を必要としました。

西南戦争の戦場が次第に九州南部へと移っていく７月ごろ、阿蘇郡の村人たちは政府軍から軍夫として動員されました。その一部が「亀甲組」に配属されましたが、このなかには阿蘇原野での道標建立で知られる甲斐有雄も含まれていました。亀甲組は21名で構成され、大分地方などへ赴いています。

この資料には、有雄たち軍夫が「玉薬持夫」（弾薬運搬）や食料運搬などのほか、「風呂立」役、竹木の切り出し、草鞋作りなどを務めたことや、軍夫役の報酬として、各人へ給金が支払われたことが記録されています。



松橋収蔵庫では有雄が明治10年に記した日記をもとに、平成22年度に西南戦争に関する展示を予定しています。民衆の目から見た西南戦争とはどのようなものだったのでしょうか。

No. 62 動物　オオクビキレガイ *Rumina decollata*　オカクチキレガイ科

近年、九州・山口地方において徐々に生息域を広げている貝がいます。殻頂（貝殻の頂上部、写真矢印の部分）が欠けて平らになっている特徴的な殻を持つ、オオクビキレガイという陸産巻貝です。この貝は地中海地方を原産地とする外来種です。1988年に北九州市で初めて生息が確認されて以来、福岡県を中心に分布が広がっています。写真の標本は、2007年1月に荒尾市宮内の住宅地で採集されたものです。

オオクビキレガイは、農業害虫としてはこれまであまり注目されていませんでしたが、生息域の拡大と個体数の増加にともない、この貝による農作物への食害が確認されたため、今後の分布拡大による被害の増大が懸念されるようになりました。この貝の侵入経路や生息域拡大の要因は、具体的には分かっていませんが、最近では輸入される植木鉢や瓦、植物の苗や野菜などとともに入ると推測されています。今後、熊本県で生息域が拡大しないように、野菜や植物の移動時に注意深くチェックするなどの対策が必要です。

「熊本の自然と文化」　～ 松橋収蔵庫だより ～　No. 11

No. 63 植物　アサ *Cannabis sativa L.*　クワ科

アサはクワ科に属する一年生の草本で、高さは２～３mに達し、葉は手のひら状に５～７つに分かれた形をしています。雌雄異株で、雌花をつける雌株と雄花をつける雄株があります。葉や花には麻薬の成分が含まれており、一般には「大麻」や「大麻草」の名で麻薬として知られています。

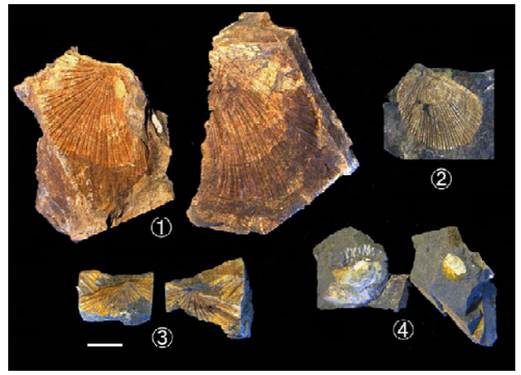
しかし、茎からは糸や布、縄、網、衣類の原料となる繊維がとれ、種子は食用になるなど、古い時代から人びとの生活を支えてきた植物です。熊本県球磨郡山江村では米・麦に代わる重要な作物として、昭和50年代まで栽培されていました。球磨の旧名である「求麻」という地名は、八代の人びとがアサを求めて球磨川をさかのぼったことに由来するという説もあります。

写真は1930年に熊本県で栽培されていた雌株の標本で、熊本の歴史や文化に深く関わるアサの姿を伝える貴重な標本です。しかし、アサの所持や栽培は大麻取締法により厳しく規制されており、この標本もご覧の画像データのみが松橋収蔵庫に保存されています。

No. 64 地学　モノチス *Monotis*

モノチスは三畳紀後期（約２億2000万年前）ごろに海中に生息していた二枚貝で、三畳紀後期を示す示準化石（地層のできた地質年代を決定する指標となる化石）として重要な化石です。モノチスはイタヤガイ上科のモノチス科に属していますが、イタヤガイ上科の多くの貝の殻は右殻がふくらみ左殻が平らなのに対し、モノチスは左殻がふくらみ右殻が平らになっています。殻は大変薄く卵形で、表面には放射状の筋や同心円状の成長線が見られます。現生の二枚貝に、生物の分類で近い関係にある仲間がないことから、その生態は謎に包まれていますが、モノチスの形態や産出状況から、水中の浮遊物や海藻などに付着して生息していたと考えている研究者もいます。

写真は松橋収蔵庫に収蔵されているモノチスの標本です。熊本県では八代市から芦北町付近に分布する地層からモノチスの化石が見つかっています。この地域は、複雑な地質構造により、さまざまな地層が断片的に分布しています。そのなかでモノチスの化石は、地層ができた時代を決めるのに重要な役割を果たしています。



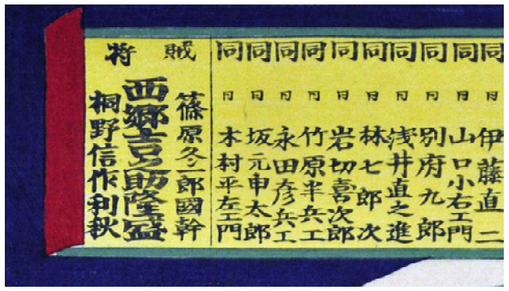
写真：
① *Monotis* (*Entomonotis*) *ochotica* (Keyserling)　八代市泉町深山谷
② *Monotis* (*Entomonotis*) *ochotica* (Keyserling)　八代市坂本町三坂
③ *Monotis* (*Entomonotis*) *ochotica* (Keyserling)　八代市坂本町荒瀬
④ *Monotis* (*Entomonotis*) *zabaikalica* (Kiparisova)　葦北郡芦北町田浦町黒崎
※スケールバーは2cm

No. 69 歴史　西南戦争錦絵「鹿児島英雄揃（かごしまえいゆうぞろえ）」

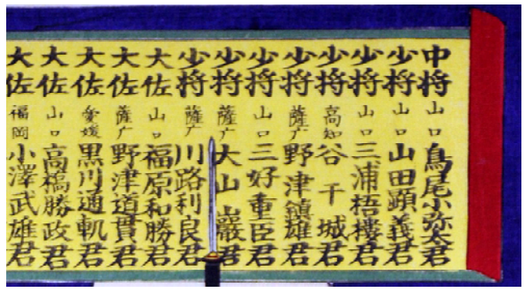
松橋収蔵庫展示室の改修後、初めての企画展示として「ふたつの明治十年日記」展を５月１２日より開催しました。西南戦争錦絵の「鹿児島英雄揃」はこの企画展で展示した資料です。

この錦絵は、鹿児島城山の陥落も間近に迫った明治１０年（1877）９月１２日に東京で出版されたものです。当時、錦絵は報道的な意味合いもあり、賊軍であるはずの薩軍諸将が「英雄揃」として堂々と描かれています。画面中央には元陸軍大将の西郷隆盛、左端では篠原国幹が洋式軍服を着用しています。しかし、これとは対照的に西郷の周りを囲む人物たちは、やや時代めいた甲冑や和装の姿で配置されています。これは東京の絵師が薩軍に抱いていたイメージを表現したものといえます。

錦絵上部の両軍諸将の人名が書かれた部分を下に拡大しました。この錦絵の主題は薩軍諸将ですが、政府軍の人名にのみ「君」の敬称が付けられています。「賊軍」・「官軍」の差がここに表現されているといえます。



薩軍の人名



政府軍の人名

“夏休みキッズミュージアム”のお知らせ

松橋収蔵庫で、楽しく遊びながら自然や伝統文化、歴史などを学ぶ体験活動に参加してみませんか。 化石レプリカや葉脈標本づくり、セミのぬけがら探し、草木染め、縄文土器づくりなどさまざまなメニューを用意しています。

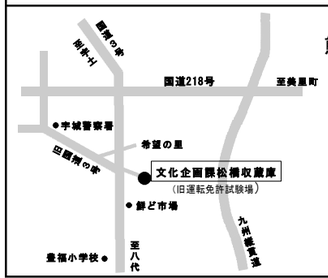
日程およびプログラム内容等の詳細は、小学校や公民館へ配付するチラシや県庁ホームページの「組織で探す」から文化企画課をクリックしていただけば、7月上旬にはご確認いただけます。

※事前の申込は必要ありません。当日会場へおいでください。

【開催日】平成２２年　７月２４日（土）、２５日（日）
７月３１日（土）、８月１日（日）
８月　７日（土）、８日（日）

【場所】松橋収蔵庫
【時間】午後１時～午後４時３０分

※プログラムによっては材料費（100円～200円程度）をいただくことがあります。



熊本県企画振興部文化企画課
松橋収蔵庫
〒８６９－０５２４
熊本県宇城市松橋町豊福１６９５
ＴＥＬ　０９６４－３４－３３０１
ＦＡＸ　０９６４－３４－３３０２

◆定期購読できます◆

最新号をメールでお届けいたします。ご希望の方はお名前を記入のうえ、松橋収蔵庫宛にメールをお送りください。(パソコンのみ)
shuuzouko_kumamoto@yahoo.co.jp

編集・発行
熊本県企画振興部文化企画課
熊本市水前寺 6-18-1
TEL　096-333-2155
2010 年 6 月 15 日

熊本の自然と文化

松 橋 収 蔵 庫 だ よ り

No.12
VOL. 4-1

◇松橋収蔵庫の収蔵資料の紹介やイベントのお知らせをしています。
平成 22 年度もこれまでよりさらに充実した企画を予定しております。

松橋収蔵庫がリニューアルオープンしました。

リニューアルした展示スペースへの入口

この春、松橋収蔵庫がリニューアルオープンしました。

重厚な雰囲気の展示スペースの入口が、来館者の皆様をお迎えします。内部はシックなダークブラウンでまとめられており、落ち着いた雰囲気の中で展示をご覧いただけます。

体験学習スペースも各種講座や、体験学習に対応するためにスクリーンや壁面書架、空調を設けて、より快適な環境でご利用いただけるようになりました。

また、ロビーには八代産のい草を使った猫伏（い草をマット状に編んだもの）の休憩スペースや、県内の見所を紹介したミニ展示「くまもとハイキング」コーナーなども新しく設けました。

夏休みには、第２回企画展示「昭和六年の天覧標本」やキッズミュージアムなどを開催します。新しくなった松橋収蔵庫へ是非お越しください。

「くまもとハイキング」

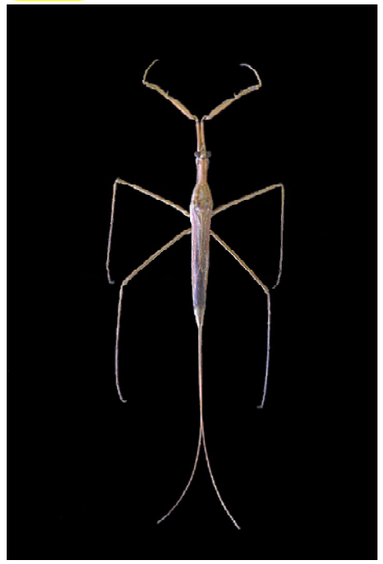
企画展示
「ふたつの明治十年日記」

体験学習スペース

休憩コーナー

「熊本の自然と文化　松橋収蔵庫だより」は熊本県ホームページからもご覧いただけます。

No. 65 動物　ミズカマキリ　*Ranatra chinensis*　カメムシ目



（写真１）

この昆虫は、水中に棲み、細い体形をしてカマを持っていることから、ミズカマキリと呼ばれています。体長は12cmほどで、カマキリの仲間ではなくカメムシの仲間です。ミズカマキリは、その特徴的なカマで水中の弱った魚や昆虫を捕らえ、注射針のような口（口吻：写真2）を獲物に刺して体液を吸います。この針のような形の口が、カメムシの仲間に共通する特徴です。

ミズカマキリは、ため池や貯水池など様々な場所で見られ、時には小学校のプールなどでも見られます。左の標本（写真1）は、2010年１月に山都町のため池で採取された個体です。普段は水の中で生活していますが、エラを持たないため水中で呼吸することができません。そこで、シュノーケルのような細長い管（呼吸管）を体の後端から伸ばして呼吸をします。呼吸管は、溝のある２本の針が合わさっています。生きているときは１本の針のように見える呼吸官も、標本にすると写真のように２本に別れやすくなり、構造の観察がしやすくなります。

（写真２）

No. 66 植物　オオキンケイギク　*Coreopsis lanceolata L.*

オオキンケイギクは北アメリカ原産のキク科の多年生草本です。日本には明治20年代に渡来し、観賞用として日本中で栽培されました。現在では道路沿いや河原に野生化しています。

オオキンケイギクの葉は３～５つの長楕円形の小葉に分かれ、真ん中の小葉が最も大きくなります。オレンジ色がかった黄色の大きな花は、小さな花がたくさん集まったもので頭状花序（かじょ）とよばれます。花序（かじょ）の一番外側にある大きな花弁は、先が４～５つに不規則にわかれています。高さ70cmにもなるオオキンケイギクの群落におおわれた場所では、日なたを好む日本在来の草本植物は減少し、さらには消失することが知られています。そのため、オオキンケイギクは「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」、通称「外来生物法」によって2006年に特定外来生物に指定されおり、栽培や保管、運搬が禁止されています。

写真の標本は、1973年に熊本市の立田山に野生化していたものです。オオキンケイギクが熊本市で野生化していたことを示す標本で、その侵入や広がりを調べる手がかりとなる資料です。

熊本市秋津の木山川沿いに群生する
オオキンケイギク

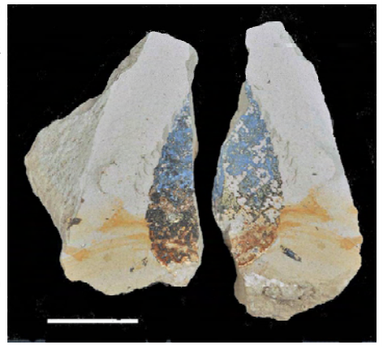
「熊本の自然と文化」　～ 松橋収蔵庫だより ～　No. 12

No. 67 地学　金峰山芳野層の藍鉄鉱（らんてっこう）　vivianite　化学組成：$Fe_3(PO_4)_2 \cdot 8H_2O$

写真スケール：2cm

藍鉄鉱は、鉄(Fe)とリン酸塩(PO_4)の結合した鉱物で、湖底や海底の堆積物中や金属鉱床、泥岩などの堆積岩中などから産出します。もともとは無色透明な鉱物ですが、空気に触れると酸化して青味を帯びた色に変化します。この藍鉄鉱は、魚の骨を包む状態で見つかったり、藍鉄鉱化した状態の植物化石が見つかったりしていることから、形成に生物が関係する場合があると言われています。

写真の標本は熊本市河内町で産出した藍鉄鉱です。灰白色の泥岩中の青いインクの染みのように見える部分が藍鉄鉱です。植物の葉っぱの形をしているものも見られます。



写真スケール：2cm

熊本市西部の金峰山一帯の山々は約140万年～16万年前の火山活動によってできました。この火山活動に伴う地形の変化により、熊本市河内町岳～川床付近には約50万年～35万年前頃に、一時的に水がたまって湖ができ、そこに芳野層と呼ばれる主に泥岩からなる地層ができました。この芳野層中には植物の葉の化石が多く含まれ、これらの植物化石の一部が藍鉄鉱となっています。

No. 68 民俗　蚕籠（かいこかご）

県内ではバラと呼ばれる蚕を飼育するための平たい籠です。これを棚に引き出しのように差し入れて使います。蚕籠には木箱や稲わらで編んだ籠なども使われていましたが、明治の後わりころから竹製のものが増えました。

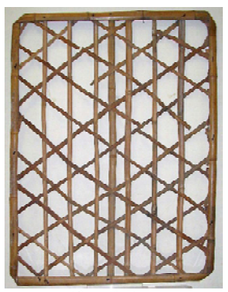
写真は県内で使われていたバラです。地域や時代、使い手の考え、取引していた製糸工場の違いなど、さまざまな理由で、材料や大きさ、形、籠の編み方、底の深さ、底の形状などが異なる様々なものが作られ使われてきました。

バラ　球磨郡錦町　大正期～昭和20年

バラ
上天草市姫戸町
昭和５年～20年

バラ
上益城郡山都町
昭和11年～58年

カイコバラ
上益城郡美里町
昭和５年～20年



グンゼバラ
山鹿市鹿本町
昭和10年～20年

シイクバコ
宇城市豊野町
昭和20年～

No.74 動物　ガムシ　*Hydrophilus acuminatus*　コウチュウ目

写真１

ガムシはゲンゴロウ *Cybister japonicus* と並ぶ大型の水生昆虫で、体長は４cm ほどになります。全身は黒くてツヤがあり、横から見るとラグビーボールを縦に切ったような体型をしています。 脚（あし）には長い毛が生えており、これは水の中を泳ぎ回るのに適しています。漢字で「牙虫（がむし）」と書き、これは腹側に牙状の突起があることからきていますが、この突起の役割は、実はまだよく分かっていません。

大まかな形態が似ているため、しばしばガムシ類はゲンゴロウ類と間違えられることがありますが、細かな形態や行動などで異なる点があります。特に異なるのは泳ぎ方で、ゲンゴロウ類が後ろ脚のみを同時に動かして泳ぐのに対し、ガムシ類は全ての脚を動かして慌ただしく泳ぎます。一見、ゲンゴロウ類に比べて泳ぎ下手に見えますが、これはガムシ類が水草の多いところで生活し、あまり泳ぎ回る必要がないためであると考えられています。また、呼吸をするときには、ゲンゴロウ類が腹部の先端から空気を取り込んで翅（はね）の裏（背中側）に空気をためるのに対し、ガムシ類は水面まで来ると頭部を上げ、触角を突き出して空気を取り込み、翅の裏の他に、腹側にある多数の細毛の隙間に空気をためます。そのため、水の中にいるガムシ類の腹側は空隙に光が反射して銀色に光って見えます（写真２）。

写真１の標本は、2010 年５月 31 日に山都町で採集されたメスの個体で、写真２も山都町で同時期に採集されたものです。

ガムシは、以前は水草の多い溜め池などでよく見られた昆虫でしたが、現在は全国的に生息数を減らしています。原因として、生息していた場所の環境の変化や、使用されている農薬の影響が大きいと考えられています。

写真２

熊本県企画振興部文化企画課
松橋収蔵庫
〒８６９－０５２４
熊本県宇城市松橋町豊福１６９５
ＴＥＬ　０９６４－３４－３３０１
ＦＡＸ　０９６４－３４－３３０２
museum_project@kke.biglobe.ne.jp

◆定期購読のご案内（年間４回発行）◆

最新号およびバックナンバーを熊本県庁ホームページ（トップページ→組織で探す→企画振興部文化企画課）に掲載しています。是非ご購読下さい。

紙へリサイクル可（大豆インキを使用しています）

「熊本の自然と文化」　～ 松橋収蔵庫だより ～　No.13

編集・発行
熊本県企画振興部文化企画課
熊本市水前寺 6-18-1
TEL　096-333-2155
2010 年 9 月 15 日

熊本の自然と文化

松橋収蔵庫だより

No.13
VOL.4-2

◇「ふたつの明治十年日記」「昭和六年の天覧標本」につづき、今年度第３回企画展を下記の通り開催します。　リニューアルした松橋収蔵庫へ是非ご来場ください。

平成２２年度　文化企画課松橋収蔵庫第３回企画展

ちょっと昔の暮らし探検 Ⅲ

2010.9.10～11.30　10:30～16:30

［日曜日、祝日は休み］

昭和 30 年代後半から 40 年代にかけての高度経済成長の下、機械化、電化、プラスティックなどの化学製品の普及により、日本人の暮らしは激変しました。このように短期間で日々の暮らしが変化するということは、これまで日本人が経験したことがないものでした。

３回目を迎える今回の展示では水道、電化製品、ガス製品が普及する以前の暮らしの道具、機械化が進む以前の農機具、漁具などを中心に約 200 点の昔の道具を展示します。

ちょっと昔ではあたりまえの暮らし、でも今の子どもたちには想像もできない暮らしの様子を紹介します。大人も子どもも一緒に楽しんでいただければ幸いです。

”キッズミュージアム・キッズおもしろ実験”大盛況でした。

夏休みの７月下旬～８月上旬の土・日曜日に恒例の　”キッズミュージアム・キッズおもしろ実験”を開催しました。

リニューアルした松橋収蔵庫の空調の効いた快適な環境の中で、小・中学生や保護者のみなさんに多数ご参加頂きました。化石レプリカや葉脈標本、昆虫採集、草木染め、縄文土器づくりなどのプログラムにみなさんが意欲的に取り組み、自然や文化に関心を持つきっかけになったのではと思います。

ご参加頂いた皆様ありがとうございました。

キッズミュージアム会場のようす

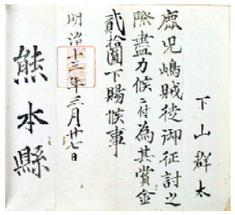
◇松橋収蔵庫の約58 万点の収蔵資料の中から、各分野（歴史・民俗・植物・地学・動物）の収蔵資料をご紹介しています。今回はNo.70 ～No.74 です。

No.70 歴史　「下山群太翁十年之役官軍従事履歴」

明治10 年（1877）に起きた西南戦争は、熊本県下の士族に大きな衝撃を与えました。多くの士族が薩軍の北上に動揺しますが、薩軍に味方して政府軍（官軍）と戦う者も現れました。こうしたなか、上鏡村（現・八代市鏡町上鏡）に居住していた士族・下山群太は、一貫して政府軍側として行動しています。写真の資料は群太がこのときの事情を「十年之役官軍従事履歴」としてまとめたものです。

本文

薩軍進軍の知らせを聞いた群太たち鏡村の士族は、近辺の非常警戒を行いました。このとき「順逆方向ヲ不誤様」、つまり反逆には荷担しないように申し合わせています。3 月19 日に政府軍の別働第二旅団（衝背軍）が八代・日奈久に上陸すると、警視隊本営からの伝令が鏡村に届けられました。これにより、群太は小川・松橋への探偵派遣など、「官軍尽力」の手配を行いました。以後、群太は旅団本営詰めとして、宇土や御船まで従軍しています。



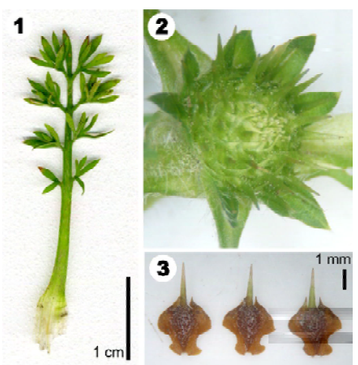
褒賞状

群太の奔走に対して、明治13 年には熊本県から褒賞が与えられています。

No.71 植物　メリケントキンソウ　*Soliva sessilis* Ruiz et Pav.

メリケントキンソウは、南アメリカ原産のキク科の外来植物です。公園、運動場、駐車場、河川敷などに生育しており、踏みしめや草刈りなどがよくおこなわれる日当たりのよい環境を好みます。高さは5cm ほどで茎の先に小さい花が集まった頭花がつきます。葉は長さ約2cm で、深く切れこみがはいっています。果実の左右はうすく張り出し、上端はトゲになっており、カブトガニを逆さにしたような形です。このトゲは長さ1.5 mm程度で硬く、皮膚に刺さるとたいへん痛いので、メリケントキンソウがはびこった公園や運動場では、素手や裸足での活動が難しくなります。

日本では1930 年に和歌山県で初めて確認されました。熊本県への侵入がいつ頃なのかはっきりしていません。写真の標本は2010 年に宇土市で採集されたもので、松橋収蔵庫にはこれより古い標本はありません。外来生物による生態系や人の生命・身体への影響などが問題になっている現在、外来生物の標本作成と記録はますます重要になってきています。



①葉、②頭花、③果実

「熊本の自然と文化」　～ 松橋収蔵庫だより ～　No.13

No.72 地学　砥川溶岩（とがわ）　Togawa Lava

砥川溶岩は、上益城郡益城町の赤井城趾付近にあった赤井火山から噴出したと考えられている溶岩です。この砥川溶岩は、現在は噴出源付近から熊本市にかけての地下に広く分布しています。地上では、益城町中砥川の岩戸川沿いや、上益城郡嘉島町上六嘉付近の台地のすそなどで見ることができます。

砥川溶岩は輝石安山岩からなる溶岩で、上部と下部は黒っぽい多孔質（たこうしつ）の岩石、中部では板状節理（板状の割れ目）が発達した緻密な岩石からなっています。砥川溶岩の噴出時期は、阿蘇火山の大規模噴火の1 回目と2 回目の間の約15 万年前と考えられています。

写真1 と写真2 は岩戸川沿いで採集されたもので、砥川溶岩の多孔質な部分と板状節理の部分です。写真3 は熊本市本荘にある熊本大学医学部附属病院の敷地内のボーリングコアから得られた多孔質な砥川溶岩です。この砥川溶岩には穴や割れ目が多いことから、熊本市の地下水の帯水層（地下水を含んでいる地層）となっています。

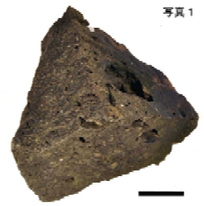


写真1

砥川溶岩（多孔質）
上益城郡益城町中砥川岩戸川沿い

※スケールバーは5cm

写真2

砥川溶岩（板状節理）
上益城郡益城町中砥川岩戸川沿い

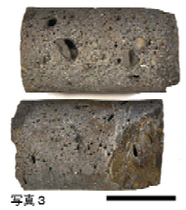


写真3

砥川溶岩（多孔質）
熊本市本荘熊大病院ボーリングコア

No.73 民俗　桑爪（くわづめ）

桑爪は蚕（かいこ）の餌（えさ）となる桑の葉を一枚ずつ摘（つ）み取（と）る道具です。県内ではクワツミ、クワツミツメなどとも呼ばれていました。写真の桑爪は宇城市松橋町で昭和20 年から昭和47 年頃まで使われていたものです。鉄製の指輪の一方に高さ約17mm、刃渡り約35mm ほどの小さな鉄刃がついています。この刃を手前に向けて人差し指にはめ、親指と人差し指の間に葉を挟み、葉の柄を切って摘み取ります。普通は枝の下から上に摘んでいきますが、慣れてくると両手にはめて、下から上、上から下とリズム良く摘めるようになります。

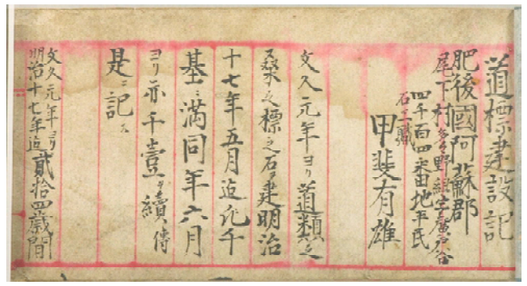
繭（まゆ）を作る直前の蚕は葉をモリモリ食べるので、毎日、桑の葉を大きな籠（かご）にいっぱい摘んでこなくてはなりませんでした。

かつて養蚕西日本一を誇った熊本県内には桑畑が各地に広がり、朝夕に桑摘みをする女性や子ども達の姿を見ることができました。

桑爪

No.79 歴史　瀬井家資料「（甲斐有雄）道標建設記」

資料本文


前書き

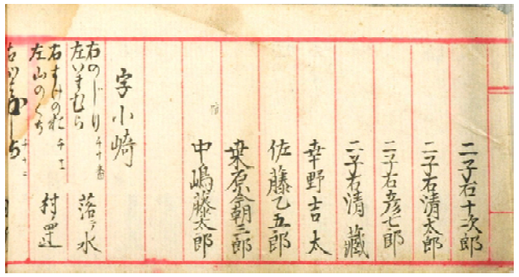
甲斐有雄は行き交う旅人が道に迷わないようにと、生涯にわたって阿蘇を中心とした一帯に道標（道しるべ）を建設し、後に県近代文化功労者として顕彰された人物です。設置総数が約2000基に及ぶといわれる甲斐有雄の道標は、現在も注意深く歩いていると見ることができます。

この資料は建設した道標について有雄自身がまとめたもので、明治17年（1884）、有雄55歳のときのものです。

前書きによると、有雄は文久元年（1861）より道標を建設しはじめ、明治17年5月までの24年間でおよそ1000基を建てています。そして「これからさらに1000基を刻む」との意気込みを記しています。

本文には建設した月日、建設した場所（村名）と道標に刻んだ道案内の碑文がまとめられています。ここで注目されるのは、各村から出された「持夫（もちふ）」たちの名が記されていることです。この「持夫」とは道標の材料となる石材を運んだ人々を指すと考えられますが、多い場所では20人もの持夫が協力しています。また、有雄が道標を刻んだ期間中に宿を貸したと思われる人物の名も記録されています。

道標が有雄の不断の努力によって刻み続けられたことは確かです。しかし、この資料から地域の人々による有雄への協力も道標建設の大きな支えとなっていたことが分かります。


資料本文

甲斐有雄道標（高森町尾下）

熊本県企画振興部文化企画課
松橋収蔵庫
〒８６９－０５２４
熊本県宇城市松橋町豊福１６９５
ＴＥＬ　０９６４－３４－３３０１
ＦＡＸ　０９６４－３４－３３０２
shuuzouko_kumamoto@yahoo.co.jp

◆定期購読のご案内（年間４回発行）◆

最新号およびバックナンバーを熊本県庁ホームページ（トップページ→組織で探す→企画振興部文化企画課）に掲載しています。是非ご購読下さい。

紙へリサイクル可（大豆インキを使用しています）

「熊本の自然と文化」　～ 松橋収蔵庫だより ～　No.14

編集・発行
熊本県企画振興部文化企画課
熊本市水前寺6-18-1
TEL　096-333-2155
2010年12月15日

熊本の自然と文化

松橋収蔵庫だより

No.14
VOL.4-3

◇「ふたつの明治十年日記」「昭和六年の天覧標本」「ちょっと昔のくらし探検Ⅲ」につづき、新春特別企画展を下記の通り開催します。松橋収蔵庫へ是非ご来場ください。

平成22年度　文化企画課松橋収蔵庫第4回企画展示

くまもとの正月

2011年　1月4日～1月31日

10:30～16:30

＊日曜、祝日は休館です。

正月は盆と並ぶ日本の年中行事の柱です。正月には特別なごちそうや特別な飾りが作られ、多種多様な行事が行われます。私たちにとってなぜ正月がそんなに大切なのでしょうか。

今回の展示では寄贈資料と写真をもとに、正月準備から小正月にかけての県内のさまざまな正月の行事を紹介します。

それぞれの行事に込められた人々の願いや祈りを通して、正月本来の意味を探ります。

ちょっと昔の暮らし探検Ⅲ

ご来場ありがとうございました。

去る９月１０日～１１月３０日まで開催した第３回企画展「ちょっと昔の暮らし探検Ⅲ」に、小学４年生の見学旅行や、お年寄りの方々の団体見学など、たくさんのご来場をいただきました。

小学４年生の皆さんには、教科書の内容を実物で確かめるのにお役に立てたのではと思います。

また、お年寄りの方々には古き良き時代を懐かしんでいただけたのではないでしょうか。

◇松橋収蔵庫の約６２万点の収蔵資料の中から、各分野（歴史・民俗・植物・地学・動物）の収蔵資料を紹介しています。今回はNo.75～No.79です。

No.75 植物　ボタンウキクサ　*Pistia stratiotes* L.

ボタンウキクサの標本

ボタンウキクサは世界中の熱帯・亜熱帯に生育しています。地面に根を張らず、水面を浮いてただよう水生植物です。ウォーターレタスとも呼ばれますが意外なことにサトイモの仲間です。葉には平行に走る脈が目立ち、表面には短い毛がとても密に生えていて、ビロードのような手触りです。

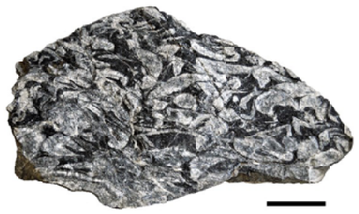
日本へは、大正末から昭和初期に観賞植物として持ち込まれました。栽培していたものが逃げ出したり捨てられたりして野生化しました。西日本では1990年代後半から大繁殖が確認されるようになり、現在、熊本市の江津湖や下流の加勢川では、水面を埋め尽くすほどに繁茂しています。

写真の標本は、2000年10月26日に江津湖で採集されたものです。標本の葉の長さは約15㎝ですが、大きな個体になると30㎝ほどにもなります。葉の間からは走出枝（そうしゅつし）を出してその先に子株や孫株を次々に作り（標本写真、→部）、爆発的に増加します。寒さに弱いと言われていますが、種子のほか、植物体も草かげなどで越冬して繁殖を繰り返します。

ボタンウキクサは水面を覆って光を遮るため、水中にある在来の水生植物の生育に大きな影響を与えると考えられています。

水面を埋め尽くすボタンウキクサ

No.76 地学　メガロドン

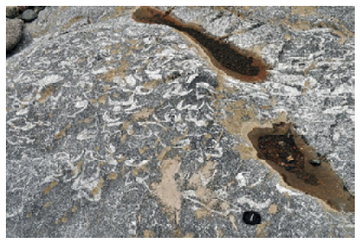


メガロドン石灰岩
産地：球磨郡相良村仏石南方
（スケールは１０ｃｍ）

写真の石灰岩に見られる白い部分はメガロドンと呼ばれる厚い殻を持つ二枚貝の化石です。メガロドンは約４億年～１億年前に生息し、特に２億1000万年前頃の三畳紀（さんじょうき）後期に繁栄したため、三畳紀後期の示準化石（その化石の含まれる地層が堆積した地質時代を示す化石）になっています。

日本でメガロドン化石を含む石灰岩が見つかっているのは、熊本県から四国の高知県付近まで帯状に分布する三宝山帯（さんぽうさんたい）（秩父帯南帯）と呼ばれる地質構造帯で、これは熊本県内では球磨川槍倒（やりたおし）の瀬付近、山江村大河内（おおかわうち）、五木村八原（やつはる）、吐合（はきあい）、水上越（みずかみごし）などに分布しています。産地として有名な球磨川槍倒の瀬の河床のものは、県の天然記念物に指定されています。

メガロドンが生息していた環境はラグーンと呼ばれるサンゴ礁に囲まれた暖かく浅い海です。このメガロドンを含む石灰岩ができたのは日本周辺ではなく、はるか南方の熱帯の海でした。その後海洋プレートに乗って日本付近まで移動し、海洋プレートが大陸プレートにぶつかったときにはぎ取られ現在の位置までやってきました。



球磨川河原のメガロドン化石入り石灰岩の露頭

「熊本の自然と文化」　～ 松橋収蔵庫だより ～　No.14

No.77 民俗　蔟（まぶし）と蔟折り機

蔟（まぶし）は、繭（まゆ）の大きさを揃えてあつかいやすいようにするために用いる養蚕道具です。古くは小枝を束ねたものや松葉、笹、茅（かや）、菜種殻などを利用していましたが、繭の大きさや形が不揃いでした。そこで一定間隔で折り曲げることができる稲藁を使った蔟が主流となり、大きさや形が揃った質の良い繭を作る事ができるようになりました。

稲藁の蔟はひとつひとつ手で折って作っていましたが、明治後期になって写真のような蔟折り機が登場しました。これは上部に藁を挟み入れ、ハンドルを交互に操作して藁を折り曲げながら下へと押し込み、できあがった蔟を下に落とす仕組みとなっています。蔟折り機によって手軽に手早く蔟を作る事ができるようになりましたが、使い捨てだったので毎年作らなくてはなりませんでした。そこで大正時代になると繰り返し何度も使える改良蔟が考案され、さらに昭和10年代には枡目に区切った段ボール紙製の回転蔟が登場し、より労働の負担は軽くなり、かつより良質の繭を作ることができるようになりました。

菊池市麓で大正後期から昭和初期にかけて使われていた蔟折り機（マブシマゲ）

蔟

No.78 動物　オオゲンゴロウ　*Cybister japonicus*　コウチュウ目

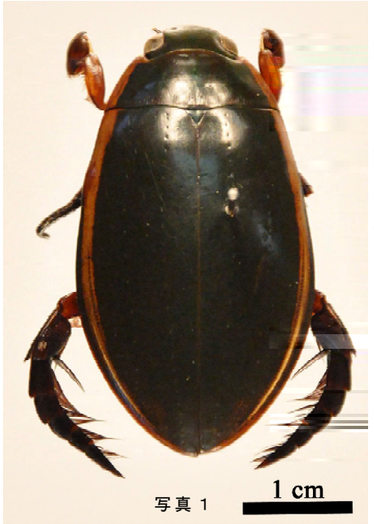


写真１

オオゲンゴロウはコウチュウ目ゲンゴロウ科に属する大型の水生昆虫で、体長は4ｃｍ程になります。ゲンゴロウの仲間は、昆虫の中で最も水中生活に適応したグループのひとつで、ほとんどの種が体の表面に凹凸のない滑らかな体型しています。また、肉食性であるため鋭く発達した顎（あご）を持ちます。さらに一番後ろの脚が大きく発達し、泳ぐための剛毛（ごうもう）が生えています。泳ぐ際には、この後肢（こうし）のみをオールのように動かして素早く泳ぎます。

写真１の標本は2004年９月に山都町で採集されたオスの個体です。オスは写真２のように前肢（ぜんし）が平たく吸盤状になっているのが特徴です。この吸盤は交尾の際にオスがメスを捕まえておくのに役立ちます。

オオゲンゴロウは、かつて池沼や水田などでよく見られました。しかし近年の農地整備や農薬の使用により個体数が激減し、今ではほとんど見ることができなくなりました。そのため環境省版レッドリスト（2000）では準絶滅危惧種に選定され、熊本県版レッドデータブック（2009）においても絶滅危惧ⅠＡ類に選定されました。

写真２：オス前肢

写真３：メス前肢

No. 84 植物　セイタカアワダチソウ　*Solidago altissima* L.

セイタカアワダチソウは北アメリカ原産のキク科の外来植物で、河原の土手や空き地などに生育しています。高さは２ｍほどにもなり、10 月頃に茎のてっぺんに大きな円錐型の花序（かじょ）をつくって黄色の花をたくさん咲かせます。秋には日本各地で写真のようなセイタカアワダチソウの群生が見られます。

日本には明治中期に持ち込まれました。当初は鑑賞目的で栽培されていましたが、その後野生化し、第二次世界大戦後には急速に分布を拡大しました。『熊本県植物誌』（熊本記念植物採集会，1969）では、1956 年に熊本城址で採集された標本が最も古い熊本県での生育の記録とされています。また、「熊本県植物誌」が発行された 1969 年頃にはすでに普通に分布していたことも記されています。

セイタカアワダチソウ標本

写真の標本は、その記録より更に古い 1952 年に八代郡東陽村（現在の八代市東陽町）で採集されたものです。ラベルには「自生状」という書き込みがあり、その頃には熊本県での野生化が進んでいたと推察できます。

遠い異国からやってきたセイタカアワダチソウですが、開発が進んだ地域でも生息できるイエバエの仲間やミツバチ、ハナアブ類が花粉を運ぶため、たくさん種子を作ることができます。種子にはわた毛があり風によって広い範囲に広がります。そして、いったん入り込んだ場所では地下茎を使って急速に広がり、背が高いセイタカアワダチソウが密に生えるようになります。そのような場所では太陽の光がさえぎられ、他の植物が成長できずにセイタカアワダチソウばかりが群生するようになります。

宇土市の土手に群生するセイタカアワダチソウ

日本各地へのセイタカアワダチソウの急速な分布拡大には、上記のような種子や地下茎による旺盛な繁殖力だけではなく、空き地などの生育適地をたくさん作り出した河川敷や都市部の様々な開発も大きく関係していると考えられています。

熊本県企画振興部文化企画課
松橋収蔵庫
〒８６９－０５２４
熊本県宇城市松橋町豊福１６９５
ＴＥＬ　０９６４－３４－３３０１
ＦＡＸ　０９６４－３４－３３０２
shuuzouko_kumamoto@yahoo.co.jp

◆定期購読のご案内（年間４回発行）◆

最新号およびバックナンバーを熊本県庁ホームページ（トップページ→組織で探す→企画振興部文化企画課）に掲載しています。是非ご購読下さい。

紙へリサイクル可（大豆インキを使用しています）

「熊本の自然と文化」　～ 松橋収蔵庫だより ～　No. 15

編集・発行
熊本県企画振興部文化企画課
熊本市水前寺 6-18-1
TEL　096-333-2155
2011 年 3 月 15 日

熊本の自然と文化

松 橋 収 蔵 庫 だ よ り

No.15
VOL. 4-4

◇「くまもとの正月」につづき、本年度第５回の企画展示「ふしぎな鉱物の世界」を下記のとおり開催しております。松橋収蔵庫へ是非ご来場ください。

松橋収蔵庫　平成２２年度　第５回企画展示

ふしぎな鉱物の世界

■テーマ１　鉱物ってなんだろう？？

鉱物とはいったいどのようなものか、 鉱物はどのような特徴をもっているのかについて紹介します。

■テーマ２　生活の中の鉱物

鉱物は私たちの生活のなかのさまざまな場所で利用されています。 日常生活にかかせない金属などの元素とそれを含む鉱物、 鉱物自体の利用について紹介します。

■テーマ３　熊本県でみつかる鉱物

熊本県内には、 時代も種類もさまざまな岩石が分布しています。 それに伴って、 鉱物もいろいろな種類を見ることができます。 そのような熊本県産の鉱物を紹介します。

平成２３年　３月１日　（火）　～５月１４日　（土）

※日曜，祝日は休館。 但し５月３日～５日は開館。

入場無料

○時間 ： 午前１０ ： ３０～午後４ ： ３０

○場所 ： 文化企画課　松橋収蔵庫　（旧松橋運転免許試験場）

○団体観覧 ： 熊本県文化企画課まで、 お気軽にご相談下さい。

新春特別展示「くまもとの正月」ご来場ありがとうございました。

去る１月４日～１月３１日まで開催した新春特別展示「くまもとの正月」に、たくさんの皆様にご来場いただきありがとうございました。

収蔵資料の写真などをもとに、正月準備から小正月にかけての県内のお正月の行事をご紹介しましたが、それぞれの行事に込められた人々の願いや祈りを通して、正月本来の意味を探っていただけたのではと思います。

特別企画展示「くまもとの正月」

◇松橋収蔵庫の約６２ 万点の収蔵資料の中から、各分野（歴史・民俗・植物・地学・動物）の収蔵資料を紹介しています。今回はNo.80 ～No.84 です。

No.80 地学　宇城市松橋町豊福のコランダム　corundum　化学組成　Al_2O_3

コランダム（鋼玉）は酸化アルミニウム（Al_2O_3）からなる鉱物です。コランダムは硬い鉱物で、鉱物の硬さの基準となるモース硬度では、ダイヤモンドの硬度10 に次いで硬い、硬度９となっています。純粋なものは無色透明ですが、不純物が加わることで様々な色に変わります。クロムが入って紅色になったコランダムはルビー、鉄とチタンが入って青色になったものはサファイアと呼ばれています。

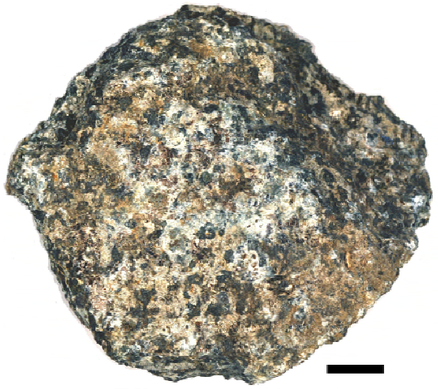


写真１　コランダムロック
産地：宇城市松橋町豊福
スケール２ｃｍ

写真１の資料は宇城市松橋町豊福産のコランダムロックです。この岩石のなかの黒っぽい部分がコランダムです。松橋産のコランダムは不純物を多く含むため、暗灰色～暗青色になっています。虫眼鏡などで観察すると、まれに微小のきれいなコランダムの粒（写真２）を見つけることができます。

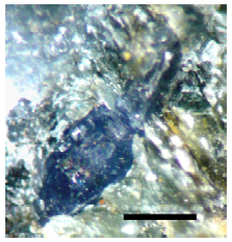


写真２　コランダム粒（拡大）
スケール0.5mm

松橋のコランダムは、黒雲母片麻岩と蛇紋岩の境界に沿って、幅１ｍ程度の帯状に分布しています。酸化アルミニウムの含有量が少ない蛇紋岩との境界付近に、なぜコランダムができたのかはまだ謎に包まれています。

No.81 民俗　毛羽取り機

写真１
マイクリ　大正期～昭和７年
天草市倉岳町宮田
51cm × 31cm × 18cm

毛羽とは蚕（かいこ）が繭（まゆ）を蔟（まぶし）に固定するために繭のまわりに吐く糸のことです。木の枝や草、折り曲げた藁（わら）などの蔟では毛羽は蔟に残るのですが、大正時代に発明され普及した改良蔟では毛羽が繭についたままになります。毛羽は生糸にはならないので取り除いて出荷しなくてはなりません。そこで毛羽を取る道具が作られ使われるようになりました。

毛羽取り機はローラーで毛羽を巻き取り、同時に繭についている藁やごみを取り除く道具です。県内ではケバトリ、マユクリ、マイクリなどと呼ばれます。

写真１のような初期のものは金属の棒で毛羽を巻き取っていましたが、やがて布やゴムのベルトで毛羽を巻き取る方式に変わりました。

写真２
マユクリ　昭和11 年～
玉名郡和水町江田　（本体）

写真２の毛羽取り機はゴムベルトで繭から毛羽を取り、取った毛羽を布ベルトが巻き取って取り除く仕組みになっています。本体後方には繭をのせる補助箱がついていて一度に大量の繭を処理できます。また、高さがあるため座っての作業が楽に行えるようになりました。

「熊本の自然と文化」　～ 松橋収蔵庫だより ～　No.15

No.82 動物　タガメ　*Lethocerus deyrolli*　カメムシ目

写真１

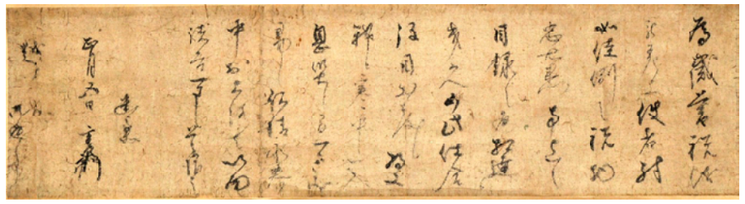
タガメは、カメムシ目に属する日本最大の水生昆虫で、体長は6cm ほどになります。写真１の標本は、2010 年６月に上益城郡山都町にて採集されたオスの個体です。カメムシ目の特徴である針状の口吻（こうふん）をもち、大きく鎌のようになった前肢（ぜんし）の先には鋭（するど）い爪があります。タガメは、普段はあまり動かずに獲物を待ち伏せし、獲物が近づくと鎌のような前肢ですばやく捕らえます。彼らは、主にドジョウやオタマジャクシなどを餌としますが、自分よりも大きなカエルや魚を捕らえてしまうこともあります。

タガメはオスが卵を保護することも知られています。（写真２）メスが産卵した後、オスはその場に残ってふ化するまで卵に水をかけて育てたり、外敵から守ったりします。

写真２

かつては水辺の昆虫の代表であり、身近で見ることのできたタガメですが、現在はほとんど見ることができません。農薬が使用されたことや農地整備により生息場所が失われたことが原因で個体数が減少したと言われています。

No.83 歴史　細川幽斎書状〔辛島家資料〕



細川幽斎（藤孝）は戦国時代における文化人・教養人として名高い人物です。特に幽斎は古今和歌集の秘伝継承者として、古今伝授を行ったことで有名です。昨年（2010 年）は幽斎没後400 年ということもあって、県内外でも多くのイベントが催されました。

資料左、差出・宛名部分

この史料は、幽斎が贈られた歳暮に対してお礼を述べた書状です。宛名の「越中」は息子・（越中守）忠興だと考えられます。歳暮はかなり丁重なものだったようで、幽斎も「このような次第、とてもめでたい」と述べています。また、「寒中の折り、我々（幽斎たち）は息災なので安心しなさい」と忠興の心中を気遣っています。年号を欠いていますが、慶長５（1600）年の関ヶ原合戦以後に書かれたものだと推測されます。

幽斎から忠興へ宛てられた書状で現在知られているものは少なく、この書状はその貴重な一例だといえるでしょう。本資料が辛島家に伝わった経緯などを含め、今後も調査研究を継続していく必要があります。